沼津市
明治史料館通信

1991.4.25(季刊 年4回発行) Vol.7 No.1 通巻第25号

明治44年(1911)1月撮影　駿東郡長と郡会議員たち(望月美奈男氏所蔵)

ぬまづ近代史点描⑮

駿東郡会

駿東郡の首邑として、沼津に郡役所が置かれたのは、「郡区町村編制法」が施行された明治十二年(一八七九)のことである。その後二十三年(一八九〇)に「郡制」が公布され、静岡県では二十九年(一八九六)に施行されるに至り、郡は県と町村の中間に位置する自治団体として郡会が開設された。

郡会議員は、各町村から複選制によって選出された議員と地価一万円以上の大地主から互選された議員とで構成されていたが、三十二年(一八九九)には複選制と大地主議員制が廃止され、直接選挙となった。郡会では、予算・決算や教育・勧業・土木などに関する議案を審議したが、知事が任命する郡長が議長を兼ね、原案執行権を有するなど、官治的性格が強かった。郡制は大正十一年(一九二二)に廃止され、郡は単なる行政区画となった。

上の写真には現在の沼津市域の旧町村選出議員十二名が写っているが、内六名が村長、一名が県会議員を経験した(する)有力者であった。

シリーズ
沼津兵学校とその人材 ㉔

沼津兵学校と工兵

工兵とは陸軍の兵科のひとつであり、交通・通信・架橋・爆破・照明などの軍事行動上必要な技術面を担当した。兵器が発達し、戦争が近代化するにつれその役割は大きくなっていった。

沼津兵学校には、歩兵将校之科、砲兵将校之科とともに築造将校之科が置かれていたが、これがすなわち工兵科にあたる。生徒は、入学願書提出の時点でどの兵科を志望するかを記入するが、実際には資業生を修了し本業生に進級したところで三科に分かれて専門を勉強することになっていた。築造将校之科では、築造学として野堡・地雷火・橋梁・永久城郭・伝信機略説・水雷火、水理学として道路・橋・水道・家屋製造・轍道・造船学略などが専門の学科として教えられることになっていた。

沼津兵学校の教授からは、明治陸軍の軍人が少なからず出たが、砲兵科に進んだ者が多く、工兵に進んだのは、**天野貞省**（工兵中佐）のみである。一方、生徒のほうは、学校が兵部省に移管され、陸軍兵学寮に合併・吸収された際、残存生徒六十四名全員が教導団工兵第一大隊を編制したため、その後も工兵科に進んだ者が多く、陸軍に奉職したことがわかっている六十名ほど（附属小学校出身者を含む）のうち約半数の三十名ほどが工兵科の将校や陸地測量部の技師であった。

中でも、日清戦争では第一軍工兵部長として鴨緑江の架橋に成功し戦功をあげた**矢吹秀一**、日清・日露戦争でそれぞれ第二軍・第四軍の工兵部長をつとめたほか、工兵第一方面提理として軽気球の導入を行ったりした**古川宣誉**らは、工兵界の指導的立場になった。また、陸地測量部製図課長・地形課長として測地事業に尽力した**早川省義**（少将）、陸軍鉄道隊の創設者といわれる**吉見精**らも、その分野において顕著な功績を残した工兵界の人物である。初代築城本部長となった**村田惇**（中将）は砲兵科の出身であるが、同様の功労者といえる。

また、陸地測量部初代部長をつとめた**小菅智淵**（工兵大佐）、その弟で同部の地形課長などをつとめた**関定暉**（工兵大佐）、軍用電信隊副提理などをつとめた**筒井義信**（工兵中佐）といった人々も、沼津兵学校の出身ではなかったものの同じ旧幕臣・静岡藩士だった。

このように、沼津兵学校やその周辺の旧幕臣出身者からは、多くの工兵科軍人が輩出し、明治陸軍草創期の技術面において大きな役割を果したのである。

そもそも「工兵」という用語が初めて使用されたのは、幕府陸軍においてであった。正確には幕府瓦解後の慶応四年（一八六八）二月から三月にかけて、工兵頭**井上元七郎**、工兵頭並**吉沢勇四郎**、同小菅智淵が任命された事実がそれである。後年の工兵大佐・工兵中佐に相当する。彼ら三人が日本における洋式陸軍最初の工兵将校であったといえるかもしれない。

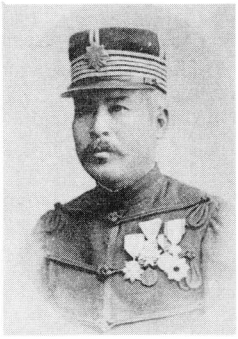
小菅は、榎本武揚の箱館政権でも工兵頭をつとめ、後に陸地測量部初代部長として活躍したことは前述の通り。吉沢は、御細工所同心竹原五左衛門の子で、蕃書調所教授方手伝・砲兵差図役頭取などをつとめ、五稜郭で戦死した。『斯氏築城典型』などの訳書がある。沼津兵学校三等教授石橋好一はその弟である。井上は、外国奉行などをつとめた井上義斐（備後守・主水正）の子で、砲兵頭から工兵頭に転じた。維新後沼津に移住、生育方八番頼取締をつとめたが、明治二年（一八六九）八月十八日二十九歳で亡くなった。戒名は大教院殿元道日暹居士、墓は本光寺にある。

井上元七郎の墓
（本光寺）

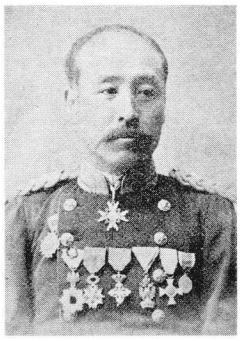
〈参考文献〉吉原矩『日本陸軍工兵史』（一九五八年）、升本清「幕末の工兵隊とその架橋教範―ポントニールスウェーデンスカップ」『蘭学資料研究会研究報告』第二五七号（一九七二年）など。

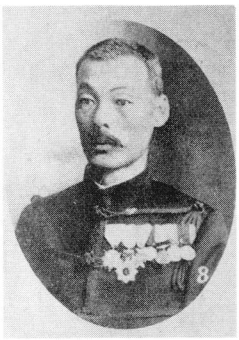
沼津兵学校出身の工兵科軍人たち

写真提供／渡瀬雅子氏・成沢知雄氏・永嶺年子氏

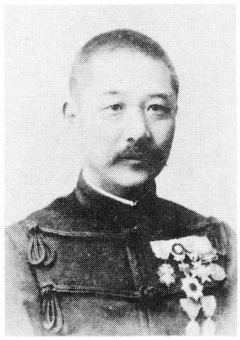

陸軍少将　小島好問

陸軍中将　古川宣誉

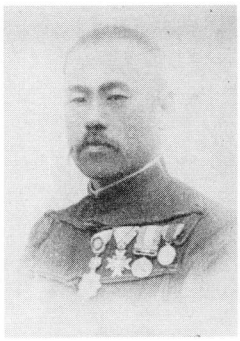

陸軍中将　矢吹秀一


工兵大佐　吉見　精

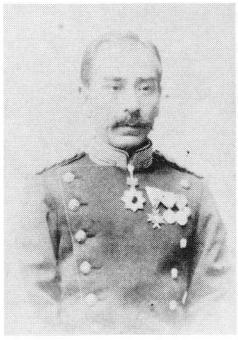
工兵大佐　木村才蔵


工兵大佐　渡辺当次

陸軍少将　渡瀬昌邦


工兵中佐　石川義仙

工兵中佐　横地重直


工兵中佐　入江倫愛

工兵中佐　成沢知行

工兵大尉　大塚庸俊

工兵少佐　高松寛剛

工兵中佐　仙波種艶

工兵中佐　渡辺英興

お知らせ欄

◎『沼津市博物館紀要15』刊行の御案内

体裁：B5判一〇〇ページ
頒価：一五〇〇円
内容：瀬川裕市郎「煮堅魚と堝形土器II」、高木照正「石器の石材と産地」、上野裕二「大浜陣屋日記（二）」、樋口雄彦「史料紹介 矢田堀鴻『公私雑載』—明治四年の静岡藩士日記—」

◎沼津市明治史料館史料目録6～9刊行の御案内

6『西椎路区有文書目録』　B5判一四一頁　一五〇〇円
7『岡宮持田家・西沢田芹沢家文書目録』　B5判七四頁　九〇〇円
8『西浦村役場文書目録』　B5判　二〇〇〇円
9『三津羽田家・河内海瀬家文書目録』　B5判　一二〇〇円

◎ゴールデンウィーク中の開館

休館日：4月29日(月)、30日(火)、5月6日(月)、7日(火)、これ以外は開館致します。

◎5月19日は無料開放日

江原素六の命日を記念し、5月19日は観覧料が無料になります。

◎ビデオを制作します

館の玄関ロビーにて放映しています。ビデオに、新たに「沼津兵学校」、「沼津の国学」の二作品が加わります。

◎沼津兵学校記念碑の拓本を展示しました

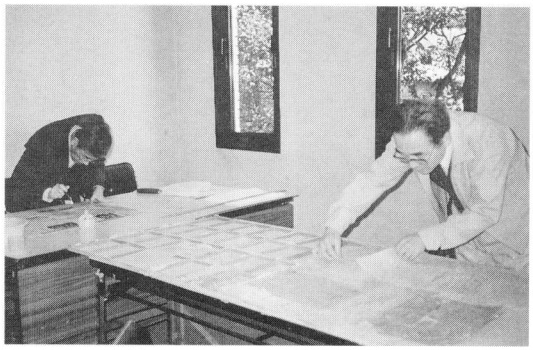
大手町の城岡神社に立っていた沼津兵学校記念碑は、駐車場建設工事のため撤去されました。当館では撤去前にとった拓本を表装し、三階展示室に展示しました。三メートルを越す大きな拓本です。

◎文書資料の補修作業を行っています

何十年、何百年といった歳月を経てきた古文書の中には、損傷が激しく補修を必要とするものが少なくありません。資料の保存を最大の任務としている当館にとって補修作業は大切な仕事です。

現在、江原素六家、西熊堂武井家、東沢田江藤家の襖の下張りにされてしまった文書を一枚一枚はがし、裏打ちをほどこすといった復元・補修作業を行っています。襖の中からはどのような文書が出てくるのかわからないので、ワクワクさせられます。実際興味深い文書が多数現われています。

隠れた歴史資料が思わぬところから顔を出す可能性があるのです。古い住宅を改築・解体するような際には、当館に是非御一報下さい。



襖の下張り文書をはがす作業

◎平成二年度来館者抄録

5・4　同志社大学高嶋祐一郎氏
5・12　根岸一朗氏（沼津兵学校生徒根岸定静子孫）
5・25　下諏訪町立博物館
5・31　渡瀬雅子氏（沼津兵学校生徒渡瀬昌邦子孫）
6・2　武蔵工業大学酒井泰治氏
6・24　熊取正光氏（沼津兵学校生徒松原秀成子孫）
7・26　兵庫教育大学神辺靖光氏
7・28　千葉市史編さん室
8・21　八王子千人同心史編集室
8・29　県史編さん室近現代部会
10・26　国学院大学大谷貞夫氏
11・2　日本音楽学会長谷川明子氏
1・5　県史編さん室近世部会
2・5　日本女子大学石川松太郎氏
3・1　日本放送出版協会
3・5　千葉市史編さん室
3・16　久野明子氏（大山捨松伝記著者）

沼津市明治史料館通信　第25号
編集・発行　沼津市明治史料館
〒410 沼津市西熊堂372—1
☎〇五五九(23)三三三五